

単元名 時こくと 時間

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 時刻と時間の違い、午前と午後の区別や正午の意味、日・時・分の関係を理解し、時計の針の動きを基に、時刻や時間を求めることができる。
- (2) 時刻と時間の関係を基に、時間や、特定の時間だけ前や後ろの時刻の求め方を見いだすことができる。
- (3) 時刻・時間に関心をもち、生活と関連付けながら、時刻・時間について考えようとする。

標準的な展開例

02040103_001

【準備等】時計の模型、時刻を目盛った直線

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 単元で学習する内容を知り、単元の学習課題をつかむ。[p. 16～p. 18]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の学習課題をつかむ。 ★時こくや時間についてもっとしらべていこう。 ○絵を見ながら、それぞれの時刻を調べる。 ○家を出てから、学校に着くまでの時間を調べる。 ○給食の始まりから終わりまでの時間を調べる問題に取り組む。 <p>2 2つの時刻を知り、その間の時間を求める。[p. 19]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★長いはりがどれだけうごくかをしらべよう。 ○「起きてから家を出るまでの時間」「起きてから学校が始まるまでの時間」を考え、1時間＝60分であることを知る。 ○9時25分の「1時間後」「1時間前」「30分前」の問題に取り組む。 <p>3 午前と午後、1日の時間について考える。[p. 20・p. 21]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★午前や午後をつかって時こくをあらわそう。 ○「学校が始まる時刻」と「ねる時刻」について考え、午前と午後、正午について知る。 ○1日が24時間であることを知る。 ○「家を出てから家に帰るまでの時間」を考えたり、いろいろな時刻や時間を調べたりして、発表する。 <p>4 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 22・p. 23]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 ○学習の振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時刻と時間の用語を知らせる。 ・時計の模型を示しながら、視覚的に捉えやすくさせる。 ・1目盛りが1分であることを押さえる。 ・時計の模型を使って、長い針がどれだけ動いたかを調べさせる。 【評】時計から時刻や時間を求める活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・模型の時計を操作させ、時間の経過をつかませる。 ・長針が1回りする時間をよませ、1時間＝60分であることを気付かせる。 ・頭の中で針を動かして求めるようにさせる。 【評】時刻から時間を求める活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・帯図を使い、時間に対する量感を深める。 ・学校が始まる時刻と寝る時刻の短針と長針の位置が同じであることから、時刻の違いを表す手段が必要であることに気付かせる。 ・図を手掛かりにして、時間の連続性を捉えさせる。 ・模型の時計や時刻を目盛った直線を用いる。 【評】1日の時刻や時間を表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・時刻と時間について分かったことや面白かったこと、もっとやってみたいことなどを書かせる。

【備 考】

本単元は、「あやかさんの1日」について調べ、時計と日常生活との関わりを実感させることを主眼に指導する。時刻と時間の違いについては混同されがちであるため、日頃の生活の中でも違いを意識して言葉を用いるように指導することが大切である。